

ベリーの実、元気に育て

土岐市の特養、お年寄りが挿し木づくり

果物のベリー類を使った地域おこしを進める市民運動「ベリーベリープロジェクト」に呼応し、土岐市下石町の特別養護老人ホームドリーム陶都で、ブラックベリーの挿し木づくりが行われた。お年寄りらが育てた苗を20株ほどに切り、ポットに植えた。

(箕浦由美子)



市民運動に呼応 中京院大生も参加

同プロジェクトは2017年、同市が市民に呼びかけてワークショップ「土岐くらしのラボ」を進める中から生まれた。愛知県豊田市で料理教室を主宰する小川美代子さん(48)は土岐市下石町を中心に、ブルーベリーの栽培やジャム作り、レシビコンテストなどを進めている。

このうちドリーム陶都は昨年ブラックベリーの苗を譲り受け、育ててきた。さらに増やそうと、25人ほどで挿し木づくりに挑戦。ポットに培養土を入れ、斜めに切って水揚げした枝を差し、2日間で200ポットほどを作った。交流がある中京学院大短期大学部健康栄養学科の学生も参加した。

利用者らは農作業に関わっていることもあり、慣れた手つきで「多く実をつけるといい」と願いながら作業を進めた。

今後は苗を東濃特別支援学校に譲ったり、農福連携で特産品の開発につなげたいという。

ブラックベリーの挿し木づくりに取り組む利用者ら＝土岐市下石町、ドリーム陶都